

農工維新！田布施あい^{キューセツ}3プロジェクト～地域とともに未来を切り拓くジェネラリストの育成～ 山口県立田布施農工高等学校

《育成する地域人材像》

地域の未来を支える

- ①地域産業の担い手として幅広い知識・技術を有する人材
- ②Society5.0に柔軟に対応できる創造力を有する人材
- ③世代を超えて他者と協働して課題を解決できる人材

《本事業で取り組む地域課題》

- ①地域情報の発信力の強化
- ②農林水産業の担い手の確保と育成
- ③地域コミュニティづくり



山口県PR本部長 ちよるる

地域活性化の取組

※ 田布施町まち・ひと・しごと創生総合戦略(H27～H31)

《事業概要》

田布施あい³プロジェクトとは

事業目的

これまで取り組んできたコミュニティ・スクールの仕組みを発展させ、地域課題の解決を図る探究的な学びを通じて、地域を担う人材を育成する。

3つの“あい”で地域課題の解決を目指す取組

地域と連携した農業の専門性を深化させる探究的な学びを实践

コミュニティ・スクールを発展させたコンソーシアムの構築

STAGE3 「AI(愛)」地域に貢献する

地域課題解決のアイデアを实践する

☆地域と連携した商品開発や休耕田活用などの実践的な取組を実施

STAGE2 「I(自分)」自分ごととして考える

地域課題解決のアイデアを考える

☆地域の課題解決についてのアイデア発表会等を実施

STAGE1 「Eye(見る)」地域を見て知る

地域について知り、地域課題を発見する

☆田布施あいレポート(地域の課題や魅力を集約した新聞)の作成

農工連携

工業科との連携による農業科の学習を推進

3年
2年
1年

- ICT化によるスマート農業の实践
- 「どぶろく特区」の活用
- グリーンツーリズムの企画・運営
- JGAP認証・6次産業化

グリーンライフ等

- ・地域資源の活用
- ・地域連携の手法

食品製造等

- ・商品開発等
- ・基礎学習
- ・緑地デザイン

総合的な探究の時間、農業と環境等

- ・GAP,HACCP基礎学習
- ・知財基礎学習
- ・RESAS学習
- 他学科の実習

幅広い知識・技術

課題研究等

- ・GAP認証
- ・パテントコンテスト
- 農・工共同研究
- 農・工連携活動

総合実習等

- 農業のICT化
- ・大学・企業共同研究
- ・ブランド商品開発等
- ・空き家バンク活用
- ・休耕田活用
- ・発明クラブ

- ・酒づくり
- ・キャリアデザイン
- ・ボランティア活動
- ・発明クラブ

地域課題の発見・解決学習を通じて、自己の課題を発見し、研究計画を立てる取組

創造力

協働する力

評価・検証

○○○ 事業評価：運営指導委員会等で点検・評価
 ○ 授業評価：研究授業・研究協議会等を実施
 ○ 学習評価：ルーブリックやポートフォリオ等の活用

【農業の専門性をサポート】

- 地元企業(農業)
- 地元企業(工業)
- 農業法人

山口県立田布施農工高等学校

【教育内容をサポート】

- カリキュラム開発等専門家
- 農業大学校
- 農水省中国四国農政局南周防農地整備事務所
- 教育委員会

【地域での実践をサポート】

- 地域協働学習実施支援員
- 地域交流館
- PTA
- 田布施町

町と学校が連携・協働に関する協定書を締結

ふりがな	やまぐちけんきょういくいいんかい	ふりがな	やまぐちけんりつたぶせのうこうこうとうがっこう
管理機関名	山口県教育委員会	学校名	山口県立田布施農工高等学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：山口県教育委員会
代表者名：教育長 浅原 司

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：山口県立田布施農工高等学校 学科：□普通科 ■専門学科 □総合学科
校長名：小松 啓二

研究を実施する学科（プロフェッショナル型のみ）：

①単独学科での実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉
	○							
②学科連携による実施	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉

2 取組内容

(1) これまでの地域課題研究等の実績

- 平成 22 年度に農工高等学校として開校して以来、日本酒の醸造（農業科）、ロボット相撲（工業科）、農作業アシストスーツの開発（農工連携）など、農業科と工業科の特色を生かした地域との連携による教育活動を実践
- 平成 30 年度からコミュニティ・スクールを導入し、学校・学科の特色や専門性に応じた「テーマ型コミュニティ・スクール」に取り組み、これまでの取組内容を発展・継承

(2) 本事業による取組内容

ア 育成する地域人材像

コミュニティ・スクールの仕組みを発展させ、地域課題の解決を図る探究的な学びを通じて、以下に掲げる人材を育成する。

- ① 将来の地域産業の担い手となるために、幅広い「知識・技術」を身に付けた人材
- ② Society5.0 を迎える時代に、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を習得し、産業の変化に柔軟に対応できる創造力を持った人材
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を身に付け、多様な集団の中、世代を超えて協働できる人材

イ 「田布施あい³プロジェクト」の実施

- **STAGE1** 「Eye（見る）」プログラム（1年次）

【地域課題を発見する】

- ・ 地域の良さを発見し、それを発信していく。
- ・ 教科横断的な学習を通して、自らの専門学科に関する「知識・技術」を身に付ける。
- ・ 広い視野で物事を見ながら問題解決をする力を付ける。

- **STAGE2** 「I（自分）」プログラム（2年次）

【地域課題を自分のこととして考える】

- ・ 地域の問題を自分ごととして捉え、自己の課題を発見して研究を実践する。
- ・ 改善に向けて試行錯誤する中で「思考力・判断力・表現力」を身に付ける。

○ **STAGE 3** 「A I (愛)」プログラム (3年次)

【課題解決に向けた探究的な学びを通じて、地域と自分を愛する】

- ・ 地域との協働をテーマとして、イベント等を企画・運営する。
- ・ 課題解決の達成状況について検証・分析し、コンソーシアムと協働して研究成果をまとめ、次の目標を設定する。

ウ 地域課題の解決に向けた探究的な学びの実現

○ 探究的な学びの基礎となる知識・技術の習得

《地域課題解決に向けて》 =空間軸

① 「農林水産業の担い手の確保と育成」のために

- ・ 「作物」「野菜」「課題研究」等の学習を通して、GAPについて学習し、国際水準で食の安全安心と持続可能な農業について科学的な根拠をもとに理解する。
- ・ 「食品製造」「課題研究」等の学習を通して、HACCPについて学習し、国際水準の食品衛生について科学的な根拠をもとに理解する。
- ・ 「酒類醸造」「総合実習」等の学習を通してコンソーシアムと協働し、ブランド商品の開発につながる知識・技術を身に付け、6次産業化について理解する。
- ・ 農業のICT化について学習し、スマート農業の手法を理解する。
- ・ 「自然災害と都市防災」「都市緑地デザイン」等の学習を通して、田布施町の住みよさや、共助・自助の大切さ等を学習する。

② 「地域情報の発信力の強化」のために

- ・ 「農業情報処理」においてRESASを活用した学習を実施し、2年次に実施する「田布施あいデア発表会」に生かし、田布施町をPRする能力を身に付ける。
- ・ 「農業と環境」において、田布施町の農業に関する現状を学習し、地域の良さと課題を発見するきっかけにする。

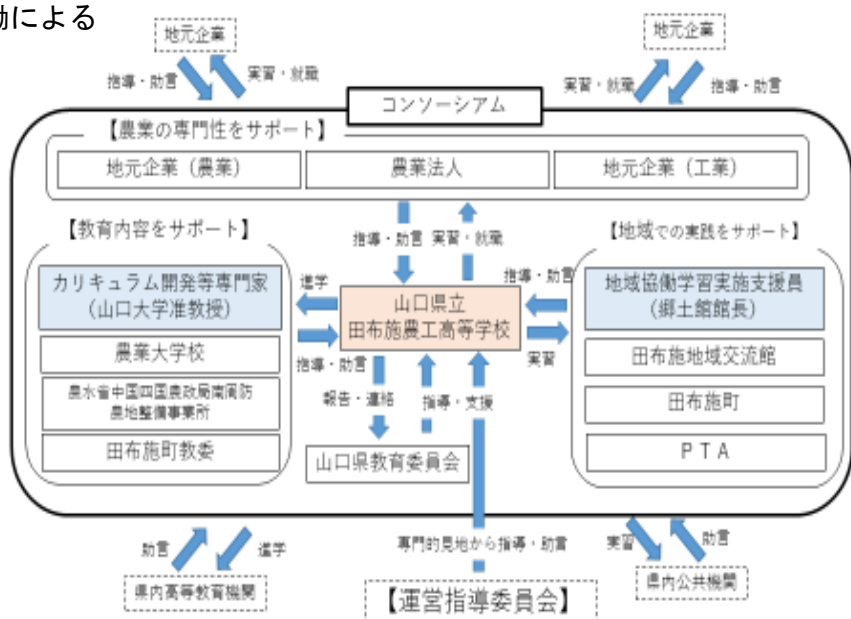
①と②の学習内容の深化・総合化

③ 「地域コミュニティづくり」のために

- ・ 専門科目で学んだ知識・技術を生かして、休耕田や空き家バンクを活用し、「たぶせ農園」や「週末田布施プチ移住」などの企画の実現に向けて、コンソーシアムのメンバーに助言や資源の提供を受けながら企画・運営する。
- ・ 専門科目で学んだ知識・技術を生かして、どぶろくの製造等、コンソーシアムと協働して新しい特産品を生み出す取組を実施する。
- ・ 学んだ知識・技術を生かし、防災教室や発明クラブ等、各種教室を開催する。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働による
コンソーシアムの体制



(2) コンソーシアムの構成及び役割

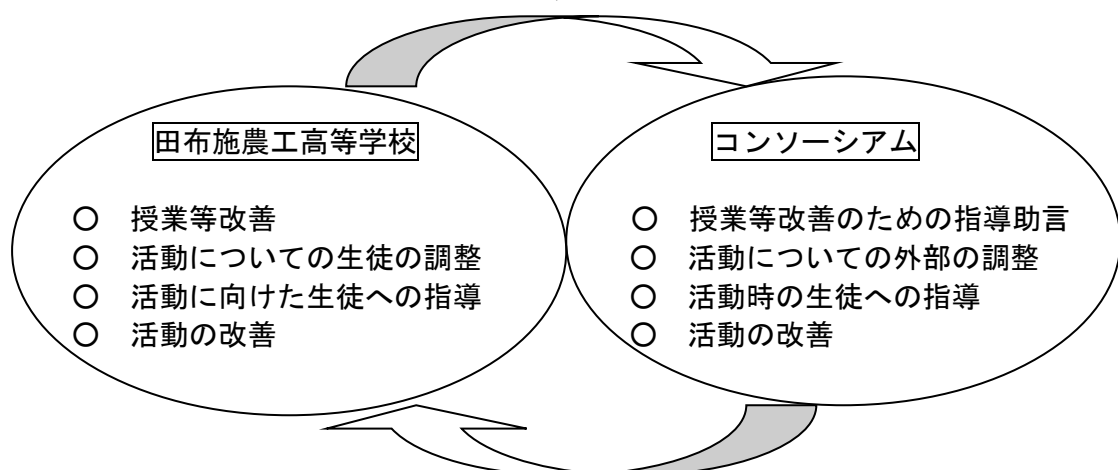
	所属	役職等	役割
1	山口大学研究推進機構 知的財産センター	准教授	カリキュラム開発専門家
2	田布施町郷土館	館長	地域協働学習実施支援員
3	農水省中国四国農政局南周防 農地整備事業所	所長	農業の ICT 化等農業関係
4	県農林総合技術センター 農業担い手支援部	教務課長	GAP 等農業関係
5	田布施町経済課	課長補佐	6次産業化等
6	田布施町企画財政課	係長	地域連携・調整等
7	田布施町教育委員会社会教育課	社会教育主事	地域連携・小中学校連携等
8	アグリ南すおう(株)	常務取締役	栽培等農業関係
9	齋藤牧場	代表	畜産等農業関係
10	協同組合田布施地域交流館	マネージャー	観光、地域ブランド品開発
11	(株)井森工業	専務取締役	農業・工業連携
12	(株)朝日製作所	代表取締役社長	農業・工業連携
13	田布施農工高等学校	P T A会長	地域連携
14	田布施農工高等学校 校長	校長	プログラム開発
15	県教育庁高校教育課	課長	研究等活動支援

(3) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

- コンソーシアム会議（年5回）における将来の地域ビジョン・求める人材像等に係る議論
- 地域企業・団体等の人脈やノウハウなど、既存の組織・ネットワークの活用
- 町と学校が連携したわかりやすい情報発信

(4) コンソーシアムにおける研究開発体制

地域の活性化，担い手育成



活動の場の提供，活動への指導・助言

(5) カリキュラム開発等専門家（プロフェッショナル型）の指定及び配置計画

雇用形態	経歴等
非常勤 (週1回程度)	山口大学知的財産センター特命准教授，GAP 指導員 知的財産教育，農業教育，産学連携，技術経営，GAP 教育等

(6) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

雇用形態	経歴等
非常勤 (週1回程度)	元：日立製作所ソフトウェア開発本部，新世代コンピュータ開発機構 COT，桜ヶ丘記念病院 現在：田布施町郷土館館長，発明クラブ主任指導員，健康ウォーキングクラブ代表

(7) 運営指導委員会の体制

	委員	役割
1	大学教授	「地域と協働しながら行う地域課題の解決等に向けた探究的な学び」等についての指導・助言及び評価をする。また、委員会の長として、意見集約と事業全体の運営について指導・助言及び評価をする。
2	内閣府地方創生推進事務局(地域活性化伝道師)	「地域情報の発信力の強化」「地域コミュニティづくり」等についての指導・助言及び評価をする。また、本事業終了後も、田布施町における地域づくりに活かせる知見を与える。
3	山口県観光協会	「地域情報の発信力の強化」「地域の魅力づくり」等についての指導・助言及び評価をする。ひとを呼び込むことができる観光についての視点を与える。
4	農林水産部ぶちうまやまぐち推進課	「地域ブランド商品開発」「農商工連携からの六次産業化」等についての指導・助言及び評価をする。
5	農林水産部農業振興課	「GAP学習」「農業のICT化」等についての指導・助言及び評価をする。
6	山口しごとセンター	「地域の担い手の育成」「地元企業と学校の連携情報の発信」等についての指導・助言及び評価をする。
7	山口県教育庁高校教育課	事業目的に沿って事業の進捗状況を管理し、指導・助言及び評価をする。

(8) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

- コンソーシアム会議（年5回）：取組の課題や方向性について議論
- 運営指導委員会（年2回）：専門的な第三者的視点からの意見・分析
- 成果発表会（年1回）：有識者の評価により、次年度の取組を改善

(9) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

- 県事業（地域連携促進事業，県内就職支援事業等）を活用した財政的支援
- コミュニティ・スクールのさらなる充実に向けた支援
- 人事配置に係る配慮（統率力・指導力の高い管理職の配置，教員加配の優先的配置等）
- 「田布施町と山口県立田布施農工高等学校との連携・協働に関する協定書」の締結

(10) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

- 「県内就職促進プロジェクトチーム」（県）の委員が運営指導委員会に参加
- コンソーシアムの組織体制をコミュニティ・スクールに発展的継承
- 本事業により開発した教育プログラムを基に，県事業の立ち上げを計画

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	やまぐちけんりつ たぶせのうこう こうとうがっこう				②所在都道府県	山口県
2019～2021	①学校名	山口県立田布施農工高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	・平成22年に旧田布施農業高校と旧田布施工業高校が再編統合、農業3学科、工業1学科。 ・平成30年度からコミュニティ・スクールを導入。	
	生物生産科	35	35	35	105		
	食品科学科	35	35	35	105		
	都市緑地科	35	34	33	102		
⑥研究開発構想名	「農工維新！田布施あい ³ プロジェクト ～地域とともに 未来を切り拓く ジェネラリストの育成～」						
⑦研究開発の概要	<p>これまでに取り組んできたコミュニティ・スクールの仕組みを発展させて、地域の課題解決に向けた探究的な学びを通して、地域人材を育成するプロジェクトである。田布施町が抱える様々な課題のうち、「農林水産業の担い手の確保と育成」、「地域コミュニティづくり」「地域情報の発信力の強化」の解決につながる探究的な学びを通して、①地域産業の担い手としての幅広い知識・技術、②Society5.0に柔軟に対応できる創造力、③世代を超えて他者と協働して課題を解決する力、以上の3つの力を身に付けた人材の育成を目標としたカリキュラム開発を行い、地域を分厚く支える人材を育成する。</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>田布施農工高校のある田布施町は、「田布施町 まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、戦略的なまちづくりに取り組んでいるが、課題解決には、持続性のある取組を息長く続けていくことが必要である。</p> <p>一方、田布施農工高校は田布施町に設置されている唯一の高等学校であり、地域産業を支える人材の育成を担う農業科と工業科を設置する専門高校として、地域からの期待が大きい。従来から地域連携活動に積極的に取り組んでおり、平成30年度に導入したコミュニティ・スクールの仕組みを基盤として、さらに地域と協働して地域活性化に貢献したいと考えている。</p> <p>こうした中、地域の課題を自己の課題と考え、地域への課題意識や貢献意識をもつとともに、将来、地域ならではの新しい価値を創造するため、専門的な知識・技術の深化、総合化を図り、探究的な学びを実践することにより、新たな時代を生き抜くと共に、地域を分厚く支える人材を育成することを目的として、「田布施あい³プロジェクト」を実施する。具体的には、田布施町が抱えている「農林水産業の担い手の確保と育成」「地域コミュニティづくり」「地域情報の発信力の強化」の課題を解決するための探究的な学びを通して「世代を超えて協働して課題を解決できる力」「Society5.0に柔軟に対応する創造力」「幅広い知識・技術」の3つの力を身に付けた地域人材を育成することを目標とする。</p> <p>(2) 現状分析と研究開発の仮説</p> <p>(ア) 現状分析</p> <p>【田布施町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田布施町は毎年、自然減、社会減により継続的に人口が減少 ・ 農地は中山間地域に多く存在し、後継者不足が深刻な状況 ・ 地域ブランド商品や観光資源に乏しく、情報発信も課題 <p>【田布施農工高校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度からコミュニティ・スクールを導入するなど、地域連携の基盤がある。 ・ コミュニケーション能力や、他者と協働する力に課題が見られる生徒がいる。 ・ 農業関連の専門性を生かした職種に就職する生徒が少ない。 					

	<p>(イ) 研究仮説</p> <p>【仮説1】 田布施町の地域課題の解決につながる探究的な学習活動を実践することにより、高校生の田布施町に対する愛着と誇りが芽生え、地元定着につながる。</p> <p>【仮説2】 農業の専門科目を中心に教科横断的・探究的に学習することにより、農業の専門的知識・技術の深化とともに、学習意欲の向上が図られ、将来の農業従事者増加につながる。</p> <p>【仮説3】 コンソーシアムを構築し、地域と協働して地域ブランド商品を開発する研究等を通して、生徒のコミュニケーション能力が向上し、創造力の育成につながる。</p>
<p>⑧-2 具体的内容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 田布施あいプロジェクトの実施（時間軸：3年間の成長） 地域課題の解決を通じた段階的・探究的な学習活動を実践することにより、自己の課題を発見するとともに、自己の在り方・生き方を考える。 「Eye（見る）」プログラム（1年次） 地域について知り、地域課題を発見する。 「I（自分）」プログラム（2年次） 地域課題を自分ごととして捉え、解決のアイデアを考える。 「AI（愛）」プログラム（3年次） 地域課題のアイデアを実践し、地域を愛し、地域に貢献する。 ○ 地域課題（①～③）を解決するための探究的な学び（空間軸：横の広がり） <ul style="list-style-type: none"> ① 「農林水産業の担い手の確保と育成」 <ul style="list-style-type: none"> ・ GAPについての学習：「作物」「野菜」「課題研究」等 ・ HACCPについての学習：「食品製造」「課題研究」等 ・ ICT化によるスマート農業についての学習：「課題研究」等 ・ コンソーシアムとの協働によるブランド商品の開発 学校設定科目「酒類醸造」「総合実習」等 ・ 田布施町についての学習：「自然災害と都市防災」「都市緑地デザイン」等 ② 「地域情報の発信力の強化」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「農業と環境」において、田布施町の農業に関する現状を学習し、地域の良さや課題を発見 ・ 「農業情報処理」において、RESASの分析手法を学習し、「田布施あい」発表会などを通じて、田布施町をPRする発信力を習得 ③ 「地域コミュニティづくり」（①、②の取組を深化・総合化） <ul style="list-style-type: none"> ・ 休耕田や空き家バンクを活用した「たぶせ農園」や「週末田布施プチ移住」等の企画・運営 ・ 特区を活用したどぶろくの製造等、新しい特産品の創造 <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教科横断的な視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携する教科の担当者が目標や評価方法等について協議する時間を設定 ・ 各科目の授業実施時に、達成目標と他教科での学習内容の関連性を伝え、身に付く力が社会や将来にどのように生かされるのかについて、生徒が考察する時間を設定 ○ PDCAサイクルの確立 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標の実現に向けた教育内容の見直し、仮説に対する達成状況、改善策の検討などについて、全ての教科主任が定期的に協議 ○ 地域資源の効果的活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ コンソーシアムや運営指導委員会等の構成員が研究授業に参加し、地域や各専門の立場から授業改善について意見交換 ・ コンソーシアムや運営指導委員会等の構成員のネットワークを活用した教育資源の活用 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>なし</p>